

MUSIC/ART/MINATOMACHI

ASSEMBRIDGE
NAGOYA 2019

音楽とアートで出会う、みなとまち

アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019

2019.9.7 Sat. - 11.10 Sun.

会場 | 名古屋港～築地口エリア一帯

Venues | Around the Nagoya Subway NAGOYAKO (Port of Nagoya) Station to TSUKIJIGUCHI Station area



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019

Assemblage NAGOYA 2019

開催期間 2019年9月7日(土)～11月10日(日)

会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

会場 名古屋港～築地口エリア一帯

主催 | アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

構成団体：名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、
公益財団法人名古屋市文化振興事業団

助成 | 令和元年度 文化芸術創造拠点形成事業



目次

メインビジュアル コンセプト	P2
開催趣旨、開催概要、アッセンブリッジ・ナゴヤについて	P3
見どころ	P4
ディレクター挨拶／企画概要	P5-P7
企画体制	P8
参加アーティスト.....	P9-P16
チケット情報.....	P17
開催クレジット	P18

メインビジュアル コンセプト

港まちの様々な場所でプログラムが開催される本フェスティバルのコンセプトから、音楽とアートがまちに散らばり、広がり、人と人、人とまちがつながることをイメージしたメインビジュアル。ドットで作った文字や、拡散し重なるドットは、散らばりながらも見えない線がそこにあり、フェスティバルを通して生まれるつながりをデザインの中で表現しています。



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019 デザインディレクション、デザイン

中西 要介 Yosuke Nakanishi

1981年生まれ、神奈川県在住。株式会社STUDIO PT。フリーランスを経て、2018年中澤耕平と株式会社STUDIO PT。設立。エディトリアルデザインを軸に、いろいろな媒体のデザインを手がける。

HP | studio-pt.co/



溝田 尚子 Naoko Mizota

1978年生まれ、愛知県在住。フリーランス。千種区今池にある共同オフィスSundwichに在籍。最近、リソグラフィスタジオ whenpress を仲間とオープン。愛知県を中心に、美術系のアートワークを手掛ける。

HP | www.mizotanaoko.com



デザイン

中澤 耕平 (STUDIO PT.)、根津 小春 (STUDIO PT.)



開催趣旨

アッセンブリッジ・ナゴヤは、今年で4回目を迎えます。会場となる名古屋の港まちは、産業都市としての名古屋の発展を支えてきた歴史あるまちです。2016年より港まちエリアを中心に開催している本フェスティバルは、いつもの生活空間の中で、文化に触れることのできる、日常と地続きの芸術体験を展開するべく、音楽とアートという2つのジャンルから国内外で活躍するアーティストを紹介してきました。

今年度は、公演や展示に加え、公募によるレジデンスプログラムや、アーティストそれぞれの創作背景を参加者と共有するワークショップなど、鑑賞にとどまらないプログラムを企画・開催します。本フェスティバルでの体験を通し、多くの人々にとって文化がより身近なものとなり、そしてフェスティバルが新たな出会いや繋がりを生み出す場となることを目指します。アッセンブリッジ・ナゴヤの試みに、どうぞご期待ください。

開催概要

名称

アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019 Assembridge NAGOYA 2019

開催期間

2019年9月7日(土)～11月10日(日)
会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

会場

名古屋港～築地口エリア一帯

主催

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会
構成団体：名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

助成

令和元年度 文化芸術創造拠点形成事業



アッセンブリッジ・ナゴヤについて

アッセンブリッジ・ナゴヤは、2016年よりスタートし、名古屋の港まちを舞台にした音楽と現代美術のフェスティバルです。音楽やアートが架け橋となり、まちと人が出会い、つながりが生まれ、新たな文化が育まれていくことを目指しています。コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、名古屋の港まちの日常に音楽やアートが溶け込み、創造性溢れる場所から風景が動き出していきます。

※[アッセンブリッジ assembridge]とは、「集める」「組み立てる」などの意味をもつ[アッセンブル assemble]と、[ブリッジ bridge]を組み合わせた造語です。



見どころ

1. ジャンルを超えた多彩なプログラム

アッセンブリッジ・ナゴヤの特徴は、音楽と現代アートという2つの異なるジャンルを掲げていることにあります。音楽やアートといっても、その表現は多岐にわたり、ひとつにくることのできるものではありません。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、それらの異なるジャンルを横断するフェスティバルを目指し、音楽、アート、パフォーマンスなどのクロスオーバー型プログラム〈サウンドブリッジ〉や、みなとまちの人々やアーティストが1つの同じ舞台に立つクローズドイベント〈港まちブロックパーティー〉を開催します。ジャンルや、見る／作るといった立場、既存のスタイルや思考などの垣根を超えて人々や出来事が集まり、共に創造性あふれるフェスティバルをかたちづくるプログラムを展開します。



2. 鑑賞から体験へ

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、展覧会や公演を鑑賞するだけでなく、音楽やアートの多様な楽しみ方を提案するプログラムを行います。音楽プログラムでは、コミュニケーションツールとしての音楽のあり方を考えることをテーマに、港まちで活動を行うレジデンスアンサンブルや、未経験者を対象とした演奏者の公募を行い、音楽を通じた新たな出会いと体験の場を創出します。アートプログラム、そして、サウンドブリッジでは、今年度のフェスティバルでの新作発表に向けて、2018年よりリサーチを開始し、一般参加者を交えたオープンなクリエイションの機会を設けてきました。今年度の開催期間中においても、参加型のリサーチワークショップなど同様のプログラムを実施し、アーティストの視点や考えをより身近に感じてもらい、アートへの広い視点を育む活動を展開します。



音に会いに行こう。みなとまちで生まれ、育まれる音たち。

ディレクター挨拶

音楽部門では、従来型のコンサートだけでなく、演奏家と観客との距離がより近いコンサート、普段公演が行われることのない場所でのコンサートなど、まちなかだからこそできる活動を展開してきました。音楽、そして演奏家との出会いが、その場に居合わせた方に何かを残せるような仕組みを少しずつ築いてきました。

今年は観客が音楽とのより深いつながりを持てるよう、演奏を聴くだけでなく、自ら楽器を演奏し体感する参加型プログラムを実施します。また「レジデンス・アンサンブル プロジェクト」では、音楽に魅了された若手の演奏家たちが、昨年度に引き続き、港まちに滞在します。彼らはまちのなかで人びとと直接的に関わり合い、演奏家としてのあり方を模索しながら、音楽に向き合い発信し、世界的な音楽家や現役で活躍する演奏家との共演も行います。彼らが演奏家としてまちや人びとに育てられて成長していく姿を、彼らの演奏を楽しみながら一緒に応援していただければ幸いです。

— 音楽プログラムディレクター | 岩田 彩子

企画概要

音楽プログラムでは、初級者から未来の、そして世界的な音楽家が一同にアッセンブリッジ・ナゴヤのステージに集います。世界的なヴァイオリニストであるインゴルフ・トゥルバンなど国内外で活躍する奏者たちの演奏を、港まちエリアの特徴である港の風景を感じられるポートハウスなどでお楽しみいただけるプログラムのほか、昨年より好評を得ているレジデンスプログラム、今年度からの新たな試みとして、一般公募により演奏者を募集する参加型プログラムを実施します。

レジデンスプログラム

演奏家がコミュニケーションツールとしての「音楽の在り方」を考えることを目的とし、港まちの幼稚園や福祉施設などを訪れ、児童や利用者の方とともに音楽を楽しむ公演を行うアーティストを公募するレジデンスプログラムを実施します。演奏家たちは、様々な場所、様々な鑑賞者と対峙することによって、更なる経験を積み、音楽の伝え方を学びます。

みなとストリングス

音楽の楽しみ方や魅力は、観る・聴くだけではなく演奏することにもあります。楽器演奏を通して音楽の魅力に触れる機会をつくることを目的に、経験を問わず弦楽演奏に興味のある方を公募する参加型プログラムを実施します。参加者は、プロの演奏家らによるレッスンを経て、楽器演奏を学び、会期中に実際にステージに立ち、演奏を行います。

参加アーティスト

インゴルフ・トゥルバン(ミュンヘン音楽大学ヴァイオリン科教授)、安田 祥子(ヴァイオリン)、春日井 久美子(ヴァイオリン)、景山 奏(ヴィオラ)、荒井 結(チェロ)、岡林 和歌(クラリネット)ほか



みなとまちで触れる、新たな表現のかたち。

ディレクター挨拶

アート部門では 2016 年より続くタイトル「パノラマ庭園」のもと、2018 年から「移ろう地図、侵食する風景」をテーマにした 2 年に渡るプロジェクトを展開し、今年も名古屋港エリアに点在する複数の会場をつなぐ展覧会を開催します。

アッセンブリッジ・ナゴヤがスタートしてからの 4 年間でも、港まちの風景は絶えず動き続けています。新たな建設が進行する一方で、数多くの商店が閉店し建物が取り壊され、空き家や空き地も増えています。2018 年には、これまでまちの社交場として開いてきた「UCO」が並ぶ一帯の長屋も解体され、駐車場になりました。このできごとを受け、アーティストユニット・L PACK. を中心に、新たな社交場「NUCO」を近隣に立ち上げました。このようなまちの変化を受け止め、観察を続けるとともに、このエリアを起点としたアーティストの滞在や調査、パフォーマンス、コレクティブワークなど、制作活動の総体を「プロジェクト」と定義し、ここから生まれる新たな表現のかたちを模索します。

今回発表するものが必ずしも作品という最終形態だけではなく、これからも継続して展開されるプロジェクトもあるでしょう。また、それぞれのプロジェクトが今後どのようなかたちに変化し、まちや人びとにどのような影響を与えるか、まだ定かではありません。アーティストは変化の連続をいかに掴み、プロジェクトを通じてどのようなアクションを起こすのでしょうか。「地図」は現在地を示す記号の集合であり、土地の移り変わりを記憶し、記録するものでもあります。プロジェクトの集合体となる展覧会を通じて、港まちから多彩な表現を発信し、「現在」と過去や未来を接続することで、人びとの思考を広げるプラットフォームとなることを目指します。

— アートプログラムディレクター | 服部 浩之、青田 真也、吉田 有里

企画概要

アートプログラムでは、2018 年度より、碓井ゆい、L PACK.、山本高之 3 名のアーティストを選出し、2019 年の本フェスティバルに向けてリサーチやワークショップを重ねてきました。今年度は、上記 3 名による新作を発表するほか、加えて、青崎伸孝、折元立身、千葉正也を招聘し、港まちの店舗や施設を会場に展覧会を開催します。会期中には、アーティストトークやワークショップなどを実施し、アーティストの声や思考に触れることで展覧会をより深く楽しむことのできる、参加型プログラムを行います。

現代美術展『パノラマ庭園 ー移ろう地図、侵食する風景ー』

会期 | 2019.9.7 (土) - 11.10 (日) 会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開場

開館時間 | 11:00 - 19:00 * 名古屋港ポートビル展望室は 9:30 - 17:00

会場 | 港まちポットラックビル [アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内]、旧・名古屋税関港寮、NUCO ほか名古屋港エリア内

料金 | 鑑賞にはブリッジパスが必要になります。

参加アーティスト

青崎 伸孝、碓井 ゆい、L PACK.、折元 立身、千葉 正也、山本 高之



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018 展示風景
撮影 | 富田了平



《UCO》2016-

音楽／アート／パフォーマンス／カルチャー 港まちと多様な世界に触れる、分野横断型プログラム

コンセプト

2017年から始まったサウンドブリッジ部門は、多様な音楽、そしてアート、パフォーマンス、同時代のカルチャーといったさまざまな分野を横断しながら、まちに広がるプログラムです。

サウンドブリッジではこれまで、港まちの環境とアーティストの表現がたがいに影響し合うことで、過去から未来への時間を含むその場にとどまらない作品が立ち上がり、その状況を参加者とともに共有してきました。アーティストがこの土地に呼応してつくりだす表現が、目の前にある景色や価値観をゆさぶり、その先の世界に触れるような体験を生み出します。

そうした体験がそれぞれの日常と出会うことで新たな視点が開かれ、また、港まちの文化や歴史がより豊かで多様なものへと拡張する機会となります。

企画概要

今年のサウンドブリッジ部門では4つのプログラムを実施します。

振付家・ダンサーの山下残は、昨年、自身の代表作である舞台作品『大行進』を旧・名古屋税関港寮にて上演。周辺の音や光といった環境も取り入れた作品に仕上げました。今年は港まちにて新作の制作、上演を行います。会場はイベントの開催は初となる、港まちポットラックビルの屋上です。

韓国出身、マルチアーティストのイ・ランは、名古屋港に位置するポートハウスにて、イ・ランのサポートを務めるイ・ヘジ（チェロ）とともに、夜の音楽ライブを開催します。

音と空間を用いた作品を制作するアーティストグループ「夏の大△」は、ゲストアーティストとともに、幼稚園の空間を存分に生かしたサウンドパフォーマンスを発表します。1日目は制作の様子を公開し、2日目に本公演を行います。

そしてフェスティバルの最終週末には昨年も開催した「港まちブロックパーティー」を行います。

音楽やアートに加えて、港まちの文化を取り入れ、地域の内外から集った人々と、世代を超えて踊りながら楽しめます。

参加アーティスト

イ・ラン、夏の大△(大城 真、川口 貴大、矢代 諭史)、山下 残 ほか



Aokid 《OVER THE RAIN boy》
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018
撮影 | 今井正由己



港まちブロックパーティーでの練り歩きの様子
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018
撮影 | 三浦知也

企画体制／プロフィール

アートプログラムディレクター

服部 浩之 Hiroyuki Hattori

インディペンデントキュレーター／秋田公立美術大学 准教授

1978年愛知県生まれ。2009-16年青森公立大学国際芸術センター青森〔ACAC〕学芸員。近年の主な企画に、「あいちトリエンナーレ2016」、「近くへの遠まわり」（ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ・ハバナ、2018年）など。また第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーターを務める。

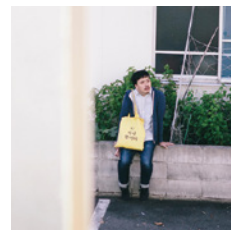


青田 真也 Shinya Aota

アーティスト

1982年大阪府生まれ。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2010」、「日常／オフレコ」（神奈川芸術劇場、2014年）、「MOT アニュアル2014」（東京都現代美術館）、「Shinya Aota 2014」（青山|目黒、東京）、「青田真也|よりそうかたち」（BreakerProject、大阪、2018年）など。また2015年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。

撮影 | 三浦知也



吉田 有里 Yuri Yoshida

アートコーディネーター

1982年東京都生まれ。BankART1929のスタッフを経て、あいちトリエンナーレ2010・2013のアシスタントキュレーターとしてまちなか展示の会場である長者町エリアを担当。2014年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。



音楽プログラムディレクター

岩田 彩子 Ayako Iwata

チェリスト

1978年愛知県生まれ。大学在学中から、チェリストとして、オーケストラでの客演や、室内楽、ソロ、レコーディング等ジャンルを隔てた演奏を続けるとともに、演奏会の企画、合唱団の立上げなど企画運営も行う。音楽大学での講師、豊田市ジュニアオーケストラの指導者等、教育活動にも力を入れている。



コーディネーター

谷口 裕子 Yuko Taniguchi

舞台制作者

1986年愛知県生まれ。2011-15年SPAC-静岡県舞台芸術センター制作部所属。あいちトリエンナーレ2016「パブロープ」（西尾美也+403architecture[dajiba]）にてプロジェクトコーディネーターを務める。2017年アッセンブリッジ・ナゴヤ音楽部門アシスタント、2018年よりコーディネーター。



アーキテクト

米澤 隆 Takashi Yonezawa

建築家／米澤隆建築設計事務所主宰／大同大学専任講師

1982年京都府生まれ、愛知県在住。主な作品に『公文式という建築』2011、『福田邸』2013などがある。主な受賞に、『THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2013』『日本建築学会作品選集 新人賞 2015』などがある。



参加アーティスト

音楽プログラム

港で音楽の1日

Ingolf Turban インゴルフ・トゥルバン（ヴァイオリン）

ドイツ出身。ニューヨーク、ウィーン楽友協会ホール、ミラノ・スカラ座等、世界の主要ホールでの公演にソリストとして出演し、セルジュ・チェリビダッケ、シャルル・デュトワ、ロリン・マゼール、ズービン・メーター、ユンディ・メヌーインらと共演。現在もソロ、室内楽を含め、年間 50 回以上の演奏会に出演している。レパートリーはバッハからベルクまで、多岐にわたる。特筆すべきニコロ・パガニーニの作品の取り組みでは、2006 年にニューヨークフィルとヴァイオリン協奏曲全 6 曲の録音（テロスレコード）を行った。またドキュメンタリー番組「パガニーニの謎」（メルクア TV2006）へも出演している。2006 年までの 11 年間、シュトゥットガルト音楽演劇大学に教授として招かれ後進の指導に専心したのち、現在はミュンヘン音楽演劇大学にて教鞭を執っている。門下生には、ベルリン・ドイツ交響楽団、ミュンヘン交響楽団、シュトゥットガルト州立歌劇場のコンサートマスターの他、セバステアーン・ボーレン、鈴木舞などがある。ソロ、室内楽共に優れた教育者として定評があり、ヨーロッパでのマスタークラスは常にキャンセル待ちである。ヘンレ社の楽譜の監修にも携わっており、2019 年にクロイツェル全練習曲が新たに出版される。



インゴルフ・トゥルバン

春日井 久美子 Kumiko Kasugai（ヴァイオリン）

愛知県出身。大阪府立夕陽丘高等学校音楽科入学後、名古屋市立菊里高校音楽科に編入し卒業。東京藝術大学を卒業後、2009 年よりスイスのカヤレイ・ヴァイオリン・アカデミーにて研鑽を積み、2013 年ディプロマを取得。藝大在学中より、ソリストとしての活動のほか室内楽やオーケストラの客演、また様々なジャンルのレコーディングに参加するなど多彩な活動を展開している。スイス留学中は、シンフォニエッタ・ドゥ・ローザヌヌ、オーケストラ・ドゥ・ランシージュネーブの主要なメンバーとして活躍し、現在は名古屋を拠点に活動。妹の春日井恵と定期的にデュオコンサートを開催し、好評を博している。名古屋フランス音楽研究会会員。名古屋音楽学校講師。

HP: <http://kumikokasugai.com>



春日井久美子

安田 祥子 Shoko Yasuda（ヴァイオリン）

愛知県出身。名古屋市立菊里高等学校音楽科及び、愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。第 21 回日本クラシック音楽コンクール第 5 位（最高位）。第 42 回愛知県立芸術大学卒業演奏会に出演。ドイツ・オーバースドルフ音楽祭、ドイツカンマーゾリステン等多数マスタークラスを受講。現在は東海地方を中心に後進の指導にあたるほか、各分野で幅広く演奏活動を行っている。2017 年より子供向けの弦楽合奏団を結成し、「アンサンブルコンサート」として毎年公演を行っている。セントラル愛知交響楽団契約団員。



安田祥子

景山 奏 So Kageyama（ヴィオラ）

岡山県出身。6 歳よりヴァイオリンをはじめ、11 歳でヴィオラに転向。岡山県立岡山城東高校普通科音楽系及び、愛知県立芸術大学音楽学部を卒業。JT 主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」、ヴィオラスペース 2010 vol.19、第 42 回愛知県立芸術大学卒業演奏会、第 44 回岡山新人演奏会に出演。イタリア・カリアリ夏季国際音楽アカデミー、京都フランス音楽アカデミー等多数のマスタークラスを受講。これまでにヴィオラを江島幹雄、安保恵麻、百武由紀の各氏に、室内楽を百武由紀、桐山建志の両氏に師事。2014 年から刈谷市立依佐美中学校オーケストラ部ヴィオラ指導者。



景山 奏

参加アーティスト

荒井 結 Yui Arai (チェロ)

福井県出身。6歳よりスズキ・メソッドでチェロを学ぶ。中学卒業後渡米、アイデルワイルド・アーツ・アカデミー（カリフォルニア）に留学。2003年よりドイツ国立ハンブルク音楽大学に留学。2008年、岩城宏之音楽賞受賞、ブラームス国際コンクールチェロ部門第2位入賞。平成24年度福井県文化奨励賞受賞。これまでに、オーケストラアンサンブル金沢、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団と共演し好評を博す。現在はソロ、室内楽を中心に活動中。これまでに、参納純三、ジョン・ワルツ、ウルフギャング・メルホーンの各氏に師事。（公財）福井県文化振興事業団主宰福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー講師。福井大学教育学部音楽科非常勤講師。



荒井 結

レジデンス・アンサンブル プロジェクト

Gemme Quartett ジェムカルテット

小木曾璃紗、松浦絵里奈（ヴァイオリン）白井英峻（ヴィオラ）向井真帆（チェロ）により愛知県立芸術大学在学時の2014年に結成された。学内オーディションより室内楽の夕べに出演。MAC 新進演奏家育成プロジェクト第8回演奏会、ヴィオラスペース2017名古屋を始め、多数の演奏会に出演。



ジェム カルテット

わたしの好きなうた ミュージカルステージ

奥村 育子 Ikuko Okumura (ソプラノ)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院を首席にて修了。第67回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学の部全国大会第2位等その他多数コンクールにて入賞。現在東海地方を中心に、オペラ・オペレッタ・ミュージカルやコンサートへの出演、オーケストラとの共演や歌のお姉さんとしてファミリーコンサートへ出演するなど、活動は多岐にわたっている。また、後進の指導も務める。同朋高等学校音楽科 非常勤講師、もりっこ彩合唱団指導者。



奥村育子

吉田 ひろき Hiroki Yoshida (バリトン)

東京藝術大学卒業後、故郷である名古屋にて本格的に音楽活動始める。クラシックを中心に、各地のオペラ公演やコンサートに出演。そして、戦国武将のふるさとである愛知県にて岡崎市PR観光事業『グレート家康公「葵」武将隊』のメンバーに抜擢され、徳川四天王の一人、榊原康政として活動。また、2012年から2015年までの3年間、私立椙山女学園中学校・高等学校にて音楽教師を務めた経験を持つ。現在東京に活動拠点を移し、全国各地で精力的に活動中。



吉田ひろき

弦楽四重奏リリカ

2002年に結成。弦楽四重奏での活動とともに、二重奏や三重奏でも活動している。お茶とお話と音楽をお客様と一緒に楽しめる不定期演奏会を開催し、演奏ジャンルにこだわらず、クラシックから日本の童謡・唱歌、映画音楽や、ポップスまで幅広く挑戦中。メンバーはそれぞれソロ、室内楽、オーケストラ等での演奏活動の他、音楽教室での指導も行っている。

参加アーティスト

名古屋フィルハーモニー交響楽団メンバーによる木管五重奏コンサート

Quintet Avalon クインテット・アヴァロン

名古屋フィルハーモニー交響楽団に所属する寺島陽介（オーボエ）、ロバート・ボルショス（クラリネット）、ゲオルギ・シャシコフ（ファゴット）、安土真弓（ホルン）、元名古屋フィルハーモニー交響楽団首席奏者で現在愛知県立芸術大学准教授の橋本岳人（フルート）による木管五重奏団。



クインテット・アヴァロン

KASH コンサート

KASH カッシュ

西脇佐和子（ピアノ、作曲）、林こずえ（ヴァイオリン）のユニット。CD「EVER FLOW」「3×7」「Live CD」全国リリース。「3×7」より「kaze」「Three」がNHK総合番組「キッチンが走る!」「日曜美術館」等で使用された。名古屋ブルーノートでのライブ他、定期的なライブ、コンサートを開催し、高い人気を誇っている。西脇の感性溢れるオリジナル楽曲と、二人の高い演奏技術に裏打ちされた音楽表現は、聴くものの心を虜にしている。 HP|kash-music.com



林こずえ



西脇佐和子

わたしの好きなうた 日本のうたステージ

酒井 和音 Kazune Sakai （ソプラノ）

名古屋音楽大学声楽専攻卒業、同大学院修了。読売中部新人演奏会に出演。名古屋音楽大学 50 周年記念オペラ『フィガロの結婚』スザンナ役、宮川彬作曲、指揮『ブラック・ジャック』ジュリア役、『愛の妙薬』アディーナ役、名古屋市民芸術祭、ランス市との姉妹提携記念公演『ランスへの旅』コリンナ役など多数の作品に出演。文化庁派遣事業にも参加。斎藤順子、佐藤峰子、長野真理子各氏に師事。名古屋音楽大学付属音楽アカデミー声楽、コーラス講師。



酒井和音

井原 義則 Yoshinori Ihara （テノール）

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院修了。ウィーン・ゲーテアニッシェスコンセルヴァトリウム卒業。オペラ・オペレッタ・ミュージカルなどの主役を数多くこなし、いずれも好評を博す。ミサ曲や合唱のソロも数多く務める。リサイタル・ジョイントリサイタルをはじめ、その他のコンサートも多数。また、オペラ演出家としても好評を博す。第2回名古屋市芸術創造賞受賞。第2回名古屋市新進芸術家海外研修員として短期留学。1989 年から3年間、あらためてウィーンに留学。現在、愛知県立芸術大学非常勤講師、南山大学エクステンションカレッジ、NHK 文化講座講師、名古屋市昭和和文化小劇場芸術アドバイザー。



井原義則

山田弦楽四重奏団

2013 年 6 月、愛知県立芸術大学の学生により結成。日本人作曲家を中心とした近現代作品を主に取り上げ、精力的に活動している。団体名は第一ヴァイオリンの苗字である山田と日本を代表する作曲家の一人である山田耕筰先生の名前から。学内選抜者による「室内楽のタベ」コンサートに 2 年連続で出演。第3回宗次ホール弦楽四重奏コンクールに出場し、原田禎夫、ヴァーツラフ・レメシュ、百武由紀各氏のマスタークラスを受講。これまでに百武由紀、花崎薫の各氏に師事。最近では宗次ホールのランチタイムコンサートを中心に活動中。特に日本の歌を弦楽四重奏に編曲したものなどを取り上げ、弦楽四重奏曲だけではなく様々な曲の魅力を発信している。

参加アーティスト

弦楽トリオ コンサート

安田祥子（ヴァイオリン）、景山奏（ヴィオラ）、荒井結（チェロ）

* プロフィールは「港で音楽の1日」をご参照ください。

Mocha mari ライブ

mocha mari もかまり

2009年より東海地方を中心にライブ活動始める。tomoka（ヴォーカル）＋山下真理（ピブラフォン）デュオというシンプルな編成で、ジャズ、ポップス、ボサノバのほか、日本の歌、世界の民謡などを取り入れ、固定のジャンルにとらわれないことなく、清涼感のあるサウンドを大切に、2人で音を紡いでいく。



tomoka

山下真理

わたしの好きなうた オペラステージ

趙 知奈 Chin Cho（ソプラノ）

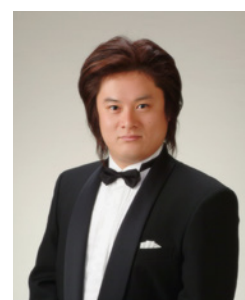
名古屋音楽大学声楽コース卒業、同大学大学院声楽専攻修了。声楽を長野真理子氏に師事。在学中より大学主催の演奏会に数多く出演する他、外部のオペラ公演やコンサートにも出演。第84回読売新人演奏会、第36回・第38回読売中部新人演奏会に出演。オペラ出演は《フィガロの結婚》《愛の妙薬》《友人フリッツ》《こうもり》等。名古屋市文化振興事業団主催企画では、ミュージカル《ライト・イン・ザ・ピアッツァ》にフランカ役で出演する他、コンサートでセントラル愛知交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団と共演。その他 NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」出演。ここ最近では、宮川彬良氏作曲の歌劇「BLACK JACK」（浜松、鳥取公演）、歌劇《あしたの瞳》（名古屋、福岡公演）に出演。2018年9月初演の時田裕也氏作曲オペラ《人魚姫》では、王女役を務める。第7回東京国際声楽コンクール新進演奏家部門第2位（最高位）、東京新聞賞受賞。



趙 知奈

遠山 貴之 Takayuki Toyama（テノール）

愛知県出身、三河一色在住。青山学院大学経済学部卒、一般企業勤務を経、愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒、定期、卒業演奏会出演。同大学院修了。これまでに「フィガロの結婚（伯爵）」「ドン・ジョヴァンニ」「コジ・ファン・トゥッテ（フェッランド）」「蝶々夫人（ゴロー）」などのオペラ、「こうもり（アイゼンシュタイン他）」などオペレッタ、飛騨市・春日井市・半田市他地域創作オペラ、またヘンデル「メサイア」モーツァルト「レクイエム」などの宗教曲、ベートーヴェン「第九」など多くの舞台・各種コンサートにソリスト出演、名古屋市文化事業団主催公演は2012年度「こうもり」（フランク役）2016年度「白馬亭にて」（ギーゼッケ役）出演。声楽を末吉利行氏に師事。愛知県立刈谷北高校非常勤講師、NPO法人ラマモンソレイユ、西尾市中善ミュージック&アートスクール講師。



遠山貴之

Cool Mens La 冷やしめんずらー

平光真彌（ヴァイオリン）、新谷歌（ヴィオラ）、酒井敬彰（コントラバス）、五島史誉（ピアノ）によるアンサンブル。2005年、愛知県立芸術大学の卒業生が集まり活動を開始。東海三県各地にて演奏。2017年、名古屋ポップアップアーティスト認定。2018年、コントラバスが加わる。名古屋市文化振興課の依頼により、名古屋市老人福祉施設「清風荘」にて演奏。平成24年度から、豊川市「フロイデンホール」からの派遣アーティストとして小中学校にてアウトリーチコンサートを実施。現在までのべ60を超える教室で、音楽と子どもたちのファーストコンタクトを演出してきた。2019年のアウトリーチではピアノの五島も加わる。平成29年度愛知県文化選奨新人賞受賞（平光）。

参加アーティスト

親子で楽しむコンサート

クピパトリオ

岡林和歌(クラリネット)、白神由美子(ピアノ)、ギョルギエウ美郷(パーカッション)からなるクラシックから、ジャズ、ポップスまでジャンルにとらわれず活動する個性豊かな3人組。0歳から100歳まで楽しめる音楽を!を motto に活動中。愉快!痛快!爆笑の渦!今日はどうなネタが飛び出すのか?!乞うご期待!2014年3月ミュージカル「ひまわりのおか」上演をきっかけに結成。これまで、保育園、幼稚園、小学校から敬老会、地域のお祭り等に招かれている。豊田市参合館での「こどもと一緒に MUSIC」シリーズでの定期的な公演をはじめ、知多半島春の国際音楽祭など各種イベントなどで公演。



クピパトリオ

フルート四重奏 × 水族館コンサート

赤澤 早苗 Sanae Akazawa (フルート)

兵庫県出身。兵庫県立西宮高校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。第53回全日本学生音楽コンクール高校の部1位、第4回びわ湖フルートコンクールジュニア部門1位。在学中、別府アルゲリッチ音楽祭にオーケストラメンバーとして参加。これまでにフルートを山腰直弘、金昌国、浅生典子、中野富雄、寺本義明の各氏に師事。室内楽を守山光三、山本正治、佐久間由美子の各氏に師事。



赤澤早苗

上原 由李 Yuri Uehara (フルート)

宮城県出身。13歳よりフルートを始める。東京藝術芸術大学在学中に藝大定期「室内楽」に出演。同大学卒業時に同声会賞受賞、同声会新人演奏会に出演。第51回全日本学生音楽コンクール福岡大会中学生の部第1位、全国大会入賞。第53回同コンクール高校の部第1位、全国大会入賞。2007年よりフィンランド国立シベリウス音楽院大学院にて、Petri Alanko、Eeva Heikkilaの各氏に師事、同大学院修士課程修了。これまでにフルートを桐原直子、金昌国、浅生典子、竹澤栄祐の各氏に師事。室内楽を佐久間由美子、小林裕、水野信行、ハンナ・ユーティライネンの各氏に師事。またフランス・ニース夏期音楽祭にて、P.ベルノルド、M.ラリュエ各氏のマスタークラスを修了。



上原由李

大久保 成美 Narumi Okubo (フルート)

香川県出身。香川県立坂出高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、同大学院音楽研究科を修了。第11回日本フルート・コンヴェンションコンクール・アンサンブル部門中学の部金賞。第60回全日本学生音楽コンクール大阪大会第1位。第12回日本フルート・コンヴェンションコンクール・アンサンブル部門高校の部金賞。第4回徳島音楽コンクール木管楽器部門大学・一般の部金賞。並びに入賞記念ガラコンサート審査員特別賞。第16回日本フルート・コンヴェンションコンクール・ソロ部門入賞。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団首席フルート奏者



大久保成美

山村 雅美 Masami Yamamura (フルート)

静岡県出身。9歳よりフルートを始め、信愛学園高等学校音楽科(現:浜松学芸高等学校音楽科)、愛知県立芸術大学音楽学部を卒業。同大学卒業演奏会、第23回読売中部演奏会など新人演奏会に出演。フルートを田中貫一、長山慶子、寺本義明各氏に師事。室内楽を村田四郎、菅原眸、中川良平各氏に師事。現在、東海地方中心にオーケストラ、吹奏楽、室内楽など演奏活動の他、後進の指導も行っている。愛知室内オーケストラフルート奏者。一宮市消防音楽隊委託演奏員。名古屋アカデミックウィングス団員。



山村雅美

アートプログラム

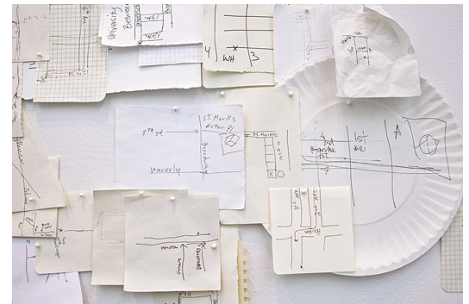
青崎 伸孝 Nobutaka Aozaki

1977年鹿児島県生まれ、ニューヨーク在住。

さまざまな人やものが交錯するニューヨークを拠点に、日常のなかで発見したものや、まちで出会うできごととの接点から、社会の構造やコミュニケーション、都市や時間、場所性について考察する制作・パフォーマンス活動を行っている。代表作である《From Here to There》では、見ず知らずの人に道を訪ね地図を描いてもらい、それぞれの視点や時間で切り取られた断片を集積することで、新たな都市の地図をつくり出している。

今回は約2ヶ月間の港まちでの滞在中に、まちを観察しコミュニティに溶け込みながら制作した新作を、名古屋港ポートビル展望室とまちなかの2会場で発表する。

HP | www.nobutakaaozaki.com



《From Here To There》2012～

碓井 ゆい Yui Usui

1980年東京都生まれ、埼玉県在住。

社会で見過ごされてきたできごとや歴史を綿密なリサーチによって掘り下げ、身近な素材や手法を用いて彫刻や絵画、インスタレーション作品を制作。アッセンブリッジ・ナゴヤ2016では、女性の社会的地位や賃金の発生しない労働について、刺繍やオーガンジーによる愛らしい手仕事により言及した作品シリーズ「shadow work」を旧・名古屋税関港察で発表した。

2018年より「港まちの女性と労働」についてリサーチを始め、1972年に港保育園で保育者や園児の環境を守るために起こった運動「自主管理闘争」をきっかけに、「保育」に関するインタビューや資料収集を実施。当時から現在までの「保育」をテーマにした新作を発表する。

HP | yuiusui.com



《our crazy red dots》2017
Collection of The Dai-ichi Life Insurance
撮影 | 富田了平

折元 立身 Tatsumi Orimoto

1946年神奈川県生まれ、同地在住。

1969年渡米。1972年からニューヨークで、アーティストのナムジュン・パイクや前衛芸術運動・フルクサスに関わる。1977年に帰国、川崎市を拠点にパフォーマンスや写真、映像、ドローイングなど幅広い作品を世界各地で発表。顔一面にパンを付け各地の人びとと交流する路上パフォーマンス『パン人間』や、自身が介護するアルツハイマー症の母親を題材にした「アート・ママ」シリーズで注目を集める。

今回は世界各地で展開してきた「おばあちゃんとのランチ」のパフォーマンスを、さまざまな時代を乗り越えてきた港まちの女性たちとともに名古屋港で行う。またその様子を記録したドキュメント作品の発表も予定している。



《500人のおばあさんの昼食》2014
ポルトガル
撮影 | 元田典利

参加アーティスト

L PACK. エルパック

小田桐奨と中嶋哲矢のユニット。

「コーヒーのある風景」をテーマにアートやデザイン、建築、民藝など領域を横断し、コミュニケーションの場をさまざまな場所で創造する。名古屋ではあいちトリエンナーレ 2013 期間中「NAKAYOSI」名義で《VISITOR CENTER AND STAND CAFE》を運営。アッセンブリッジ・ナゴヤではイベントから、建築家や「空き家再生スクール」の参加者らとともに約 20 年間空き家となっていた旧・寿司店を《UCO》として再生し、人びとが集う「まちの社交場」として、継続的に開いてきた。

2018 年に UCO は取り壊しとなったが、これまでの活動やコミュニティを継続するべくその機能を移転し、新たな空き家を再生して《NUCO》としてスタートしている。

HP | www.lpack.jp



《UCO のための設計 -8 枚切りのアーカイブ-》2018
撮影 | 富田了平

千葉 正也 Masaya Chibai

1980 年神奈川県生まれ、同地在住。

自身が飼っているカメとその水槽、さらにそれらを取り囲んだ状況を作り込み描く「タートルズ・ライフ」シリーズなど、自作のオブジェや日用品、既存のイメージなどを構成し、それらをモチーフとした絵画やドローイング、インスタレーションを制作。この独自の手法によってつくられるイメージは、さまざまな立ち場を横断しながら、絵画の構造に社会的な事象や日常の中のシステムを組み込み、実と絵画の境界を絶えず揺るがしている。

今回は旧・名古屋税関港寮の空間を全面的に用い、港まちに滞在して制作した新作や周辺の環境を読み取ったプロジェクトなどを組み合わせた大規模な展示を発表する。



《平和な村》2015
©MasayaChiba

山本 高之 Takayuki Yamamoto

1974 年愛知県生まれ、同地在住。

小学校教諭としての経験から「教育」を制作テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースとした映像作品の制作や、普段意識されることのない社会の制度や慣習などの特集性や個人と社会の関係性を問う作品を制作し、国内外で発表している。また地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトにも数多く参加している。1970 年代の「名古屋オリンピック」誘致を起点にした「リサーチワークショップ」が、2017 年よりアトラボあいちでスタート。その経過を港まちでのプロジェクトとして引き継ぎ、2018 年より「オリンピック」や「博覧会」などの都市型イベントについて学び考える場を継続的に設けてきた。今回はコレクティブとして参加者とともに重ねて来たその活動の成果を新たな手法を用いて発表する。

HP | takayukiyamamoto.com



《Lie to Me》2017 撮影 | 富田了平
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018 展示風景
撮影 | 富田了平

参加アーティスト

SOUND BRIDGE

イ・ラン (이랑) Lang Lee

韓国ソウル生まれのアーティスト。音楽、映像、漫画、イラスト、エッセイなど、表現活動は多岐にわたる。セカンド・アルバム『神様ごっこ』で2016年に韓国大衆音楽賞最優秀フォーク楽曲賞を受賞。その授賞式でのスピーチの最中にトロフィーをオークションにかけ、大きな注目を浴びる。日本では2016年に柴田聡子との7都市ツアーを行い、その後共作盤『ランナウェイ』を発表。2018年の単独ツアーも全4都市5公演すべてがソールドアウト。彼女が紡ぎだす音楽をはじめとした表現、真摯で嘘のない発言やフレンドリーな姿勢・思考は、国籍や性別、さまざまな立場を超え、広く人びとの心を揺さぶり、センセーションとシンパシーを生んでいる。今回、名古屋では約3年振りの公演となる。



撮影：三田村 亮

夏の大△ The Great △

2010年夏に開催された、大阪・梅香堂での展覧会「夏の大△」を起点とした、不定期にライブやイベント、展覧会を行う3人組。

大城 真 Makoto Oshiro

1978年、沖縄県生まれ。音を出すために自作した道具、または手を加えた既製品を使ってライブパフォーマンスを行う。またそれと平行して音・光・動きによる周期の干渉を利用したインスタレーション作品を発表している。近年は川口貴大、矢代諭史とのユニット「夏の大△」としても活動している。

川口 貴大 Takahiro Kawaguchi

主に音のなるオブジェクトやさまざまな光、身の回りにあるモノで空間を構成してゆくライブパフォーマンスやインスタレーションを行う。ソロの他に自身のバンド「Hello」や村山政二郎、宇波拓、ユタ川崎との「OffCells」、江崎将史主催のアキビン吹奏楽団「アキビンオオケストラ」、大蔵雅彦による「ActiveRecovering Music」、ユタカワサキバント改めucnvバンド」のメンバーとしても活動している。



矢代 諭史 Satoshi Yashiro

2003年頃より自走するスピーカーや自作の装置によるインスタレーション展示や演奏を始め、同時期より東京墨田区の廃工場を利用した「八広 HIGHTI」の運営などに携わる。ドラムと動くウーハーのユニット「Motallica」としての活動も行っている。

山下 残 Zan Yamashita

1970年大阪府生まれ。代表作に、100ページの本を配り観客がページをめくりながら本と舞台を交互に見る『そこに書いてある』、スクリーンに映写される呼吸の記号と俳句のテキストを身体とあわせて見る『せきをしてもひとり』、本物の線路の上を歩きながら世界の事象をつぶやく『大行進』。近年は国内外での局地的なりサーチワークも多数手掛け、バリ島に滞在して創作した『悪霊への道』、京都の老舗劇場閉館へのオマージュ『無門館の水は二度流せ 詰まらぬ』、マレーシアの政権交代を、立候補した友人と共にドキュメント&再現した『GE14』などがある。



撮影：青山孝信

チケット情報

<BRIDGE PASS /ブリッジパス>

¥700 (「あいちトリエンナーレ 2019」国際現代美術展 1DAYパスおよびフリーパスご提示の方は¥600)

現代美術展やプログラムに参加するための共通のパスです。

会期中、総合案内【MAP①】とイベント会場でご購入いただけます。

- ・名古屋港ポートビル展望室入場券が含まれます。
- ・ご本人に限り会期中何度でも利用可能です。(※名古屋港ポートビル展望室は1回のみ)
- ・中学生以下は無料です。(※名古屋港ポートビル展望室は除く)
- ・障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方2名までは100円割引になります。ブリッジパスをご購入の際、手帳をご提示ください。

<TICKET /チケット> (サポーター席含む)

2019.8.17 (土) 予約・販売開始!

* ご予約は公演前日まで、各取り扱い場所の営業時間内に限ります。

- ・名古屋市文化振興事業団チケットガイド

TEL | 052-249-9387 (ナディアパーク 8F)

営業時間 | 平日 9:00-17:00

そのほか、事業団が管理する21の文化施設窓口(土曜、日曜、祝日も営業)でもお求めいただけます。

* 工事休暇館などがありますので、事業団ウェブサイトでご確認ください。

- ・WEB | PassMarket (Yahoo! JAPAN デジタルチケット)

<http://ur0.work/VABE>

- ・アッセンブリッジ・ナゴヤ総合案内(港まちポットラックビル)

受付時間 | 11:00-19:00 (会期中の木曜-日曜、祝日)

注意事項

- ・各会場駐車場の用意はございません。公共交通機関をご利用ください。
- ・定員に達した場合、立ち見もしくは入場を制限させていただく場合がございます。
- ・公演内容や曲目、出演者は予告なく変更となる場合がございます。
- ・天候、災害、その他アーティストの都合など、やむを得ない事情により公演が変更・中止となる場合がございます。
- ・お客様の都合による、払い戻し、再発行には応じかねます。
- ・当日券販売の有無は公演当日、ウェブサイトまたはお電話にてお問合せください。
- ・当日会場にて介助を必要とされる方やご不安な点のある方は事前に事務局までお問合せください。

開催クレジット

●主催

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

構成団体 |

名古屋市

港まちづくり協議会

名古屋港管理組合

公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団

公益財団法人名古屋市文化振興事業団

●協賛



名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS



名古屋音楽大学
Nagoya College of Music



伊勢湾海運株式会社



名港海運株式会社



名古屋埠頭株式会社



小西・中村特許事務所

●後援

公益財団法人名古屋みなと振興財団

●協力

VIRTUOSO | VIOLINS
Dealers and Vatuers of Quality Violins Violas Cellos and Bows



●企画体制

アートプログラムディレクター | 服部 浩之、青田 真也、吉田 有里

音楽プログラムディレクター | 岩田 彩子

コーディネーター | 谷口 裕子

アーキテクト | 米澤 隆

デザインディレクション、デザイン | 中西 要介 (STUDIO PT.)、溝田 尚子

デザイン | 中澤 耕平 (STUDIO PT.)、根津 小春 (STUDIO PT.)

ウェブデザイン | 石垣 嘉洋

広報 | 大泉 愛子

令和元年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



※プレスリリースは、公式ウェブサイト内プレスページよりダウンロードいただけます。

<http://asembridge.nagoya/2019/press.html>

※広報用画像のご希望の際は、お手数をお掛けいたしますが下記までお問合せください。

アッセンブリッジ・ナゴヤ（AssembridgeNAGOYA）実行委員会事務局

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX | 052-652-2511

電話受付時間 |

[9.6（金）まで] 月曜-金曜（9:00-17:00）

[会期中] 月曜-水曜（9:00-17:00）、木曜-日曜・祝日（11:00-19:00）

E-mail |

contact@asembridge.nagoya（事務局）

press@asembridge.nagoya（広報）

Website <http://asembridge.nagoya/>

Facebook <https://www.facebook.com/asembridge.nagoya/>

Twitter <https://twitter.com/asembridge>

Instagram <https://www.instagram.com/asembridge.nagoya/>

Youtube <https://www.youtube.com/channel/UCzgFmhmfr5mR52fWwfgmvTw/featured>

Website



Facebook



Twitter



Instagram



Youtube

